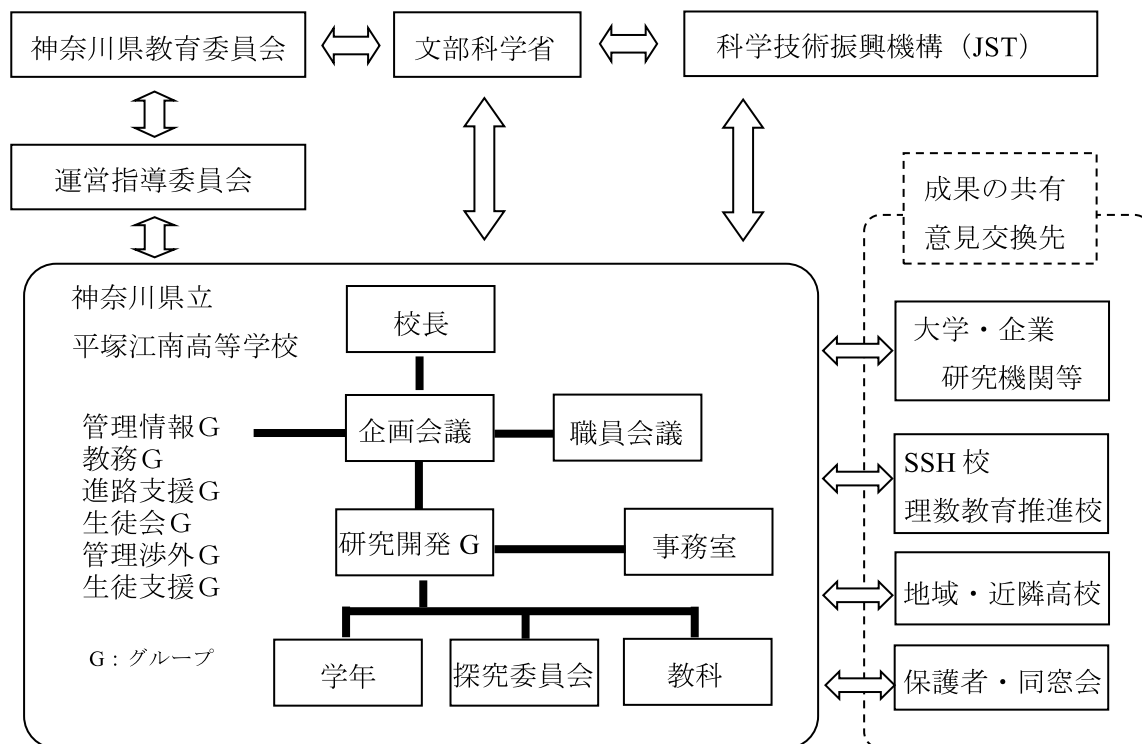


5 校内におけるSSHの組織的推進体制



研究開発グループの主導のもと、学年、グループ、教科と密接に連携、協力しながら、教職員全体で SSH としてのカリキュラムの研究開発を推進している。研究開発グループは、SSH 実施運営の全般に係る業務、教育課程検討に係る業務、組織的な授業改善（カリキュラム・マネジメント）に係る業務を行っており、教職員全体での理解と取組を促進するため、職員会議において SSH 事業の目的と実施内容をすべての教職員と共有しながら、SSH 事業を実施している。探究委員会は、1・2 学年の学校設定教科「共創・探究」を担当する各教科の教員で構成され、「共創探究基礎」「共創探究Ⅰ」における育成すべき資質・能力及び年間指導計画等についての情報共有、授業内容及び中間発表会等の計画と実施、「共創探究Ⅱ」の計画に係る連絡調整を行っている。

6 成果の発信・普及

○本校の HP における成果発信

学校設定科目「共創探究基礎」や SSH 講演会等、SSH に係る取組についてホームページ上に成果を公表し、普及を図った。

○自然科学教室

SSH 事業の普及活動の一環として、8 月及び 12 月に中学生等向けに自然科学教室を予定していたが、今年度はコロナ禍により実施できなかった。

○授業公開

県立高等学校及び県立中等教育学校を対象に、学校設定科目「数理・統計と情報」の授業をオンラインで配信し、本校の SSH 事業の成果の普及をとおして、神奈川県内の県立高等学校等における理数教育の一層の進展に資した。

○英語教員への成果普及

令和 3 年 11 月に実施された県立高等学校及び県立中等教育学校（全校）を対象とした「教育課程説明会（外国語）」において、本校における授業実践について事例を発表した。実践報告に

については、『令和3年度 高等学校教育課程研究収録』に掲載され、神奈川県立高等学校等のすべての教職員が閲覧できるように公開される予定である。

7 研究開発実施上の課題及び今後の研究課題の方向性について

課題

○課題研究に係る取組

3学年の生徒の継続した課題研究において、特に文系テーマにおける「実験データ」や「統計データ」の活用分析の方法等が必ずしも十分とは言えず、今後の指導方法も含め、さらに検討する必要がある。2学年の生徒対象のアンケートから、課題研究テーマに対し「科学的な内容、要素を含んだ研究ができる」と回答した生徒が6月～12月にかけて、47.2%から65.4%に増加している(④関係資料-3① No.29)が、34.6%の生徒が研究できないとも解釈できる。今後、生徒の課題研究の質を向上させるため、担当教員が生徒個々の研究テーマの詳細を把握し、必要に応じて外部人材を活用した個別の指導を充実させる必要がある。

○海外研修の実施

コロナ禍において、2年連続で海外研修を実施することができず、令和4年1月現在でも令和4年度実施の海外研修の訪問実施についての見通しが立っていない状況である。今年度は海外研修の代替として、オンライン等で様々な国の高校生と交流を実施したが、文化的な国際交流について参加生徒は大変満足している一方で、科学的な研究交流となった場合には、本校生徒と交流先の生徒の双方に、大きなハードルがあるように思われる。

また、国際交流参加生徒の募集についても、有志の生徒が参加しているが、さらに学校全体で取り組み、海外研修において、海外との研究交流を充実させるためにも、多くの生徒に関心をもたせながら国際交流を推進することが必要である。

○教職員全体での取組みと推進組織

④関係資料-3③設問2(教職員アンケート)では、「本校のSSH事業は、学校全体で取り組んでいる」との項目について、学校全体で20.2%の否定的な回答が見られた。また、効果があると思われる取組として、③大学、企業訪問(研究室や実験室、工場等の見学)が36.2%、④校外研修活動(体験的学習や実地レポートの作成)が31.0%、⑤外部講師による講演会(知の探訪、知の共有)37.9%と、外部研究機関等の連携については、教職員へ浸透しているとは言えない状況である。昨年度も「SSH事業が役に立つ」に対し消極的な回答が20%程度あった。働き方改革の視点からも、外部と連携して課題研究を充実させていくことの利点を共有し、すべての教職員で、これまで以上にSSH事業についての共通理解を図っていくことが必要である。

○ICT活用と探究プロセスの高度化に関する研究

本校のSSHに与えられた命題のひとつに、「ICTの活用によって、課題研究がより高度に探究的になるプロセスの解明」がある。ICTの活用によって、生徒の「情報活用能力」が向上していることが明らかになっているものの、探究プロセスの高度化との関連性については、現時点では明らかになっていない傾向にある。3学年の生徒による課題研究の完結まで、継続的に研究していく必要がある。

方向性

○課題研究に係る取組

3 学年への継続研究において、特に文系テーマにおける「実験データ」や「統計データ」の活用分析の方法等が必ずしも十分とは言えず、今後の指導方法も含め、さらに検討する必要がある。2 学年の生徒アンケート No. 29 から課題研究テーマに対し、「科学的な内容、要素を含んだ研究ができる」と回答した生徒が 6 月～12 月にかけて、47.2%から 65.4%に増加しているが、まだ 34.6%が研究できないとも解釈できる。今後、各課題研究の担当者が生徒の研究テーマの詳細を把握し、個々の課題に応じた指導を充実させる必要がある。

○海外研修の実施

国際交流など国際性を高める取組を学校全体に広げて、生徒が国際的に活躍したいと感じさせる機会を作っていくことが課題であり、国際性の育成を意識した授業展開や行事の実施をこれまで以上に行っていく必要がある。

○職員全体での取組と推進組織

今後、さらに教職員全体で SSH 事業に取り組むため、4 月に教職員に対して事業の説明と目指す姿を共通しつつ、管理職のもとで研究開発グループが中心となっている推進体制について議論と検討を重ね、推進組織のあるべき姿を探る必要がある。

○ICT活用と探究プロセスの高度化に関する研究

ICT活用と探究プロセスの高度化については、令和4年度の3年生を中心に、探究のプロセスについて検証しながら、その関連性について研究する必要がある。

8 コロナ禍におけるSSHへの取組

昨年度に続き、分散登校及び時差通学・短縮授業により、予定していた学習内容を変更せざるを得なくなったものの、昨年度と比較して、タブレット端末を活用して生徒の活動を継続したり、オンラインで講演会を行ったりするなど、主体的で対面的な教育活動を継続ためのノウハウが蓄積されている。外部との交流及び往来が活発化し、生徒研究発表会等への参加や科学系部活動によるコンテストへも、生徒を積極的に参加させることができた。

海外研修については令和4年1月の実施を目指して計画を進めてきたが、中止となりオンラインでの交流活動に切り替えた。現在、次年度の渡航状況の見通しが立たないため、研修について研修機関とのやり取りを粘り強く行う必要があり、国内での実施も視野に入れながら計画を立てる必要がある。

④関係資料－1

教育課程表

入 学 年 度		令和2年度、令和3年度入学生用													
学 年	学 級	標準単位数	1年	2年	3年				小計	文系	理系Ⅰ類	理系Ⅱ類			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択							
教科	科 目	標準単位数	文系		理系Ⅰ類		理系Ⅱ類								
			必修	選択	必修	選択	必修	選択							
国語	国語総合	4	4									4	17	11~13	11~13
	現代文B	4		2		2		2				4			
	古典B	4		3								3			
	現代文研究*				2							0.2			
	古典研究*				2							0.2			
地理歴史	世界史A	2	2									2	8~17	4~11	4~11
	世界史B	4										0.7			
	日本史A	2	2	3	4	4						2			
	日本史B	4		※1	※3	※4						0.7			
	地理B	4					4		4			0.4, 4, 7			
	世界史特論*					2						0.2			
	日本史特論*											0.2			
公民	現代社会	2		2								0.2	2~6	2~6	2~6
	倫理	2			2		2		2		2	0.2			
	政治・経済	2				2		2		2		0.2			
数学	数学Ⅰ	3	2									2	12~16	20	16~18
	数学Ⅱ	4	2	3								5			
	数学Ⅲ	5						6				0.6			
	数学A	2	2									2			
	数学B	2		3								3			
	数学研究A*					2				2		0.2			
	数学研究B*					2			2			0.2			
数学研究C*					2	2		2			0.2				
理科	物理基礎	2	2									2	9~14	13~20	13~20
	物理	4										0.3			
	化学基礎	2	2									2			
	化学	4		3								0.3			
	生物基礎	2	2									2			
	生物	4										0.3			
	物理研究*						4	4	4	4		0.4			
	化学研究*						※5	※6	※5	※6		0.4			
生物研究*											0.4				
自然科学研究*					2						0.2				
保健体育	体育	7~8	2	2	3			3		3		7	9	9	9
	保健	2	1	1								2			
芸術	音楽Ⅰ	2										0.2	2~4	2~4	2~4
	音楽Ⅱ	2	2									0.2			
	美術Ⅰ	2				2			2			0.2			
	美術Ⅱ	2										0.2			
	書道Ⅰ	2										0.2			
書道Ⅱ	2										0.2				
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4									4	18~22	18~22	18~22
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4								4			
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4		4		4			4			
	英語表現Ⅰ	2	2									2			
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2	2	2			4			
	学術英語A*					2		2		2		0.2			
学術英語B*					2		2		2		0.2				
家庭	家庭基礎	2		2								2	2	2	2
情報	社会と情報	2	●	●											
	情報の科学	2				2		2		2		0.2	0.2	0.2	0.2
学校外活動*	ボランティア活動*		1◎	1◎			1◎					0~3◎	0~3◎	0~3◎	0~3◎
共創・探究*	共創探究基礎*		2									2	6~10	6~10	6~10
	数理・統計と情報*			1								1			
	共創探究Ⅰ*			2								2			
	共創探究Ⅱ*				1		1		1			1			
	グローバルサイエンススタディ*		1~2◎	1~2◎			1~2◎					0~2◎			
サイエンスインターシップ*		1~2◎	1~2◎			1~2◎					0~2◎				
総合的な探究の時間		3~6	▲	▲	▲		▲		▲		▲				
小 一 ム ル ー ム 活 動	計		33~37	33~37	22	4~12	24	2~10	20	6~14			92~99	92~99	92~99
	ホ		1	1	1		1		1			3	3	3	3
総 計		34~38	34~38	27~35		27~35		27~35		27~35			95~102	95~102	95~102
備 考	<p>(備考) 上記の教育課程は変更もありうる。3年の選択は小計欄の単位数分を選択する。] のある科目は、その中から、1科目を選択する。ただし2年の※1と※2では異なる科目を選択する。 1年「数学Ⅰ」は前期に、「数学Ⅱ」は後期に学習する。 3年「共創探究Ⅱ」は前期に学習する。 2年で「倫理」を選択した場合、3年で必ず「政治・経済」を選択する。 3年文系：※3の地理歴史は、※1で地理歴史を選択している場合は同じ科目を履修し、「世界史B」選択者は「世界史特論」、「日本史B」選択者は「日本史特論」を必ず選択する。 選択科目で※4の地理歴史を選ぶ場合は、※3と異なる種類の科目を選択する。 3年理系：※5及び※6の理科は2年に学習した科目を選択する。※6の理科を選ぶ場合は、※5と異なる科目を選択する。 3年理系Ⅱ類の「数学研究B」は前期、「数学研究C」は後期に学習する。 *印のある科目は学校設定教科および学校設定科目である。 学校設定教科「共創・探究」の科目について、「共創探究基礎」2単位のうち1単位と「数理・統計と情報」1単位は、「社会と情報」2単位の代替とする(●)。「共創探究基礎」2単位のうち1単位と「共創探究Ⅰ」2単位および「共創探究Ⅱ」1単位は「総合的な探究の時間」4単位の代替とする(▲)。 「学校外活動」および「共創・探究」の単位数◎は、卒業までに修得すべき単位数には含まない。 「共創・探究」の「サイエンスインターシップ」「グローバルサイエンススタディ」は短期集中科目であり、最大2単位まで取得可能である。</p>														

④関係資料—2

○ 令和2年度第2回運営指導委員会記録

日時：令和3年3月26日（金）

場所：神奈川県立平塚江南高等学校 社会科教室（オンライン併用開催）

会議出席者：氏名（運営指導委員は〔 〕内に所属／職を記載） ※敬称略

《運営指導委員》森 郁恵〔名古屋大学大学院／教授・センター長〕

栗山 雄揮〔平塚市博物館／館長〕、岩本 嗣〔神奈川工科大学大学院／教授〕

中園 修一〔第一三共（株）／主査〕

Stuart Miller〔Google／Google G Suite for Educationマーケティング統括部長〕

《高校教育課》 増田 年克〔高校教育課長〕、石塚 悟史〔指導主事〕、橋本 雅史〔指導主事〕

田村 悠〔主任主事兼指導担当主事〕

《平塚江南高校》土佐 明美〔校長〕、永田 宏〔副校長〕、押野 裕〔教頭〕

鈴木 克俊〔総括教諭〕、植田 渥士〔教諭〕、栗原 京〔実習指導員〕

会議記録（発言者の敬称略）

【研究協議】

○学校から今年度の取組及び課題について説明（教頭）

- ・教育課程の改訂、学校設定教科「共創・探究」の設置、「国際通用力」の育成、科学技術人材育成に関する取組を中心に行っている。
- ・課題については、情報活用能力を探究活動で発揮すること、生徒の探究活動における教員の支援の在り方、国際交流から科学的交流への移行が挙げられる。
- ・令和3年度の計画について

○質疑応答

（中園委員）タブレット端末の運営で生徒のモチベーションや学習態度は変わったか。

（植田） グループ学習で会話していたスタイルだったが、コロナ禍でできないことも多かったが、端末のチャットを活用して意見を交換することができ、一人1台の活用も進んだ。

（森委員）チャットは、生徒は全員が見ることができるのか。

（植田） 教員もグループのチャットは閲覧できるので、コメントすることが可能である。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、声を出さずに行っている。懸案がなくなったら、声を出していきたい。

（岩本委員）生徒は、自宅でもミーティングができるのか。

（植田） 生徒自身の端末であるため、可能である。課題の提出や自宅での学習にも取り組むことができる。

（岩本委員）チャットであっても発言の頻度に差があるのではないか。チャットでは発言する学生が口頭でも発言できるようにする工夫が必要であるため、取組に入れてほしい。

（植田） 声を出さず場面では発言が少ない生徒でも、チャットでは発言しやすいという傾向はあるようだ。ファシリテートする学習をしているため、会議の進行のスキルが上がってきている。発表活動も分散させて取り組んでいる。

（森委員）ファシリテーターが常に同じ生徒ではなく、順繰りに役割を変えていくという取組をし

ているか。

(植田) 順番に行っている。

(中園委員) ゼミの立ち上げについては、これまでの延長なのか、新たな取組なのか。

(教頭) 全く新しいものである。これまで、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」に取り組む中で課題研究に取り組んできた経緯がある。

(森委員) 難しいテーマが多いが、高校の教員が指導をするのか。

(教頭) 基本的には教員が指導する。

(中園委員) ゼミはどのように設定したのか。

(植田) ゼミは担当数の教員24名が、それぞれが提示している。

(中園委員) 国際通用力の育成のために、今までのカリキュラムに上乘せしていることはあるか。

(鈴木) 受験勉強に偏らない授業を心がけて、生徒にプレゼンテーションに取り組ませている。「課題研究について」のプレゼンテーションを英語で行った。来年度の海外研修で英語による発表に取り組む生徒を涵養したい。

(森委員) 英語によるプレゼンテーションはとても難しい。高校で取り組んでほしかったことである。こうした取組はとても良いと思う。相手へのレスポンスで即座にイエスかノーを言わなければならない。賛成反対の役割を与えたディベートに取り組ませるなど、活動的な取組ができるのではないか。

例えば「月」に行く回数を増やすのと「火星」を目指すのでは、どちらが良いか、などがあると思う。英語は追い込まれると上達する。インターナショナルな人材を作ってほしい。素晴らしい取組だと思う。

(中園委員) アンケートは、学年の初めの段階、途中の段階、終わりの段階に実施すると良いのではないか。

(植田) 学年の途中の段階で実施している。経年で、2年、3年と実施していきたい。新型コロナウイルスの影響で臨時休業もあり1回だけの実施となったが、来年度は2回実施したい。

(中園委員) SSHの取組に対する生徒の評価も取ったら良いのではないか。

(橋本指導主事) ゼミについて、外部との連携についてはどうか。

(校長) これからどんどん深めていきたいので、運営指導委員の植田氏や平塚市博物館にも力をお借りしていきたい。

(森委員) 「共創」の理念に沿って、一緒に作り出すメンバーの一人であるにとらえて、積極的に淡淡と意見が言える学生が育つと素晴らしい。

(岩本委員) 留学生と話すことで、日本の良し悪しを異なる面から教えてもらうことができる。海外の人が、日本に対して良いところをグローバルな面からアピールできたら、とても良い取組になると思う。

(森委員) 大学の博士号を持つ人の中で海外の人はいつも議論しているが、日本はどうかの？と聞かれることがある。日本の視点、個人の視点で話せるようになると良いと思う。

○ 令和3年度第1回 運営指導委員会記録

日時：令和3年11月10日（水）

場所：神奈川県立平塚江南高等学校 社会科教室（オンライン併用開催）

会議出席者：氏名（運営指導委員は〔 〕内に所属／職を記載） ※敬称略

《運営指導委員》森 郁恵〔名古屋大学大学院／教授・センター長〕

浜野 達也〔平塚市博物館／館長〕、岩本 嗣〔神奈川工科大学大学院／教授〕

赤羽 智〔第一三共（株）／主査〕

宍戸 章子〔神奈川工科大学大学院／基礎教育講師〕

《高校教育課》 増田 年克〔高校教育課長〕、石塚 悟史〔指導主事〕

永末 福太郎〔指導主事〕

《平塚江南高校》吉田 亮〔校長〕、矢野 悟〔副校長〕、押野 裕〔教頭〕

鈴木 克俊〔総括教諭〕、栗原 京〔実習指導員〕

会議記録（発言者の敬称略）

【研究協議】

○学校から今年度の取組み及び課題について説明（教頭）

- ・教育課程の改訂、学校設定教科「共創・探究」の設置、「国際通用力」の育成、科学技術人材育成に関する取組を中心に行っている。
- ・課題については、共創探究基礎等で培った情報活用能力の探究活動への活用方法、生徒の探究活動における教員の支援の在り方、国際交流から科学的交流への移行が挙げられる。

○質疑応答

（宍戸委員）探究の活用のために、世界の有名大学・研究所・博物館のサイトに生徒にアクセスさせるとよい。自分の学生にも英語で交流させたが、英語で交流することは生徒の英語力の向上につながる。

（森委員）現2年生の英語での発表はまだ難しいので、高校生同士でも良いので日本語で意見交換させたり、議論させたりすることから始めるとよい。英語では論理がないと意見とならない。また、授業参観時に生徒が実験をしている場面を拝見したが、危険と隣り合わせであると感じた。火を扱う場合などはその場から離れてはいけない。研究の“いろは”を教える必要がある。

（岩本委員）自分の教える学生で英語力が向上した事例の中に、オンラインでの交流を自ら始めた学生がいた。海外とのつながりが大切である。

（森委員）英会話レベルから英語での科学的交流には2ステップが必要である。

（赤羽委員）生徒の研究のアウトプットについて教えてほしい。

（校長）発表等のパフォーマンス活動に取り組みさせているが、そのパフォーマンス評価が課題となっている。

（森委員）研究のプロセスの中で、教員が生徒に考えさせる「問い」が重要であるが、生徒たちの話し合いだけでは限界があり、研究が煮詰まってしまう。

（赤羽委員）タブレットの活用が浸透しているので情報収集だけでなく、考える・まとめる・再考する機会が重要である。

（校長）探究活動におけるファシリテーターとしての教員の関わりが、学校経営上の研究課題

である。

(森委員) 教員に負担が掛からないように、ファシリテーターとして生徒の活動を整理したり、生徒に一声掛けたりするだけでもよい。

(石塚指導主事) 「探究のプロセス」(「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」等の過程)を意識しながら、ファシリテートすることが重要である。

(森委員) 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」において、なぜこの研究なのか、何のための研究なのかといった「問い」を教員が繰り返しながらファシリテートすることも重要である。

(宍戸委員) 授業(「共創探究Ⅰ」)を実際に見学したが、少人数で実施できていることが素晴らしい。

(赤羽委員) 解決策について、主体的に考え、探究できるプロセスがあるとよい。答えのみを探すのではなく、寄り道しながらでも良いから「考える人」を育ててほしい。

○森委員長との理科教員とのリモート懇談会

森運営指導委員長の発案により開催された。

日時：令和3年12月21日(火)16:00~17:00

場所：本校物理室(オンライン)

参加者：理科教員10名、教頭

内容：次の点について、理科教員より現状を報告し、森委員長から助言をいただいた。

①理科の授業について

②SSH推進について

助言：・実験の時間については、実験を教えることよりも、教科書の理解に時間をかけるべきである。また、理解度の高い生徒に課題を与えるのも良い。

・放課後に指導するのはできたら避けたい。

・課題はとて簡単にした上で、考えること、実現可能か考えさせながら、タイムラインを教えることが重要である。

・テーマ設定が大事で、基礎の部分を押さえながら試行錯誤して仮説を立てさせ、その実証には何が必要か考えさせることが重要である。

・研究が収束しないで考察で終わる場合もあり得る。

④関係資料－3 ①1学年生徒アンケート結果

総数 313 人を割合で示した。

評価 4 : 非常にそう思う (強い肯定) 評価 3 : そう思う (肯定)

評価 2 : あまり思わない (やや否定) 評価 1 : 思わない (否定) の 4 段階評価とした。

No	設問	令和3年度 6月								令和3年度 12月								参考 令和2年度 1学年 12月	
		割合		割合				割合		割合				割合					
		肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思 う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わ ない	肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思 う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わ ない	肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)				
1	SSH校は面白そうだと思う。	88.8%	11.2%	28.8%	60.1%	8.3%	2.9%	84.9%	15.1%	28.6%	56.3%	10.9%	4.3%	76.3%	23.7%				
2	理科・数学・情報等科学への興味がある。	76.4%	23.6%	40.3%	36.1%	17.3%	6.4%	76.0%	24.0%	37.8%	38.2%	15.8%	8.2%	67.6%	32.4%				
3	心理学または社会学に興味がある。	69.3%	30.7%	22.0%	47.3%	24.9%	5.8%	78.6%	21.4%	31.6%	47.0%	19.1%	2.3%	63.8%	36.2%				
4	文学または歴史に興味がある。	57.2%	42.8%	24.3%	32.9%	27.5%	15.3%	59.2%	40.8%	26.3%	32.9%	28.6%	12.2%	63.8%	36.2%				
5	環境学または福祉に興味がある。	52.1%	47.9%	16.6%	35.5%	34.2%	13.7%	58.2%	41.8%	15.8%	42.4%	33.6%	8.2%	44.2%	55.8%				
6	観測や観察等実験への興味がある。	59.1%	40.9%	19.2%	39.9%	31.9%	8.9%	67.8%	32.2%	24.3%	43.4%	25.3%	6.9%	51.3%	48.7%				
7	社会で科学技術を正しく用いる姿勢がある。	78.3%	21.7%	21.1%	57.2%	19.2%	2.6%	81.9%	18.1%	24.7%	57.2%	16.1%	2.0%	73.1%	26.9%				
8	自主性・やる気がある。	75.7%	24.3%	22.4%	53.4%	20.1%	4.2%	72.4%	27.6%	21.4%	51.0%	23.7%	3.9%	74.7%	25.3%				
9	周囲と協力して取り組む姿勢(協調性)がある。	88.8%	11.2%	39.0%	49.8%	9.6%	1.6%	86.2%	13.8%	34.9%	51.3%	11.8%	2.0%	82.7%	17.3%				
10	粘り強く取り組む姿勢がある。	75.4%	24.6%	29.4%	46.0%	22.4%	2.2%	77.3%	22.7%	27.6%	49.7%	19.4%	3.3%	70.8%	29.2%				
11	独自なものを創り出す姿勢がある。	73.8%	26.2%	25.2%	48.6%	22.7%	3.5%	74.7%	25.3%	25.3%	49.3%	23.0%	2.3%	64.1%	35.9%				
12	発見する力・気づき力がある。	71.9%	28.1%	19.2%	52.7%	25.9%	2.2%	72.0%	28.0%	19.7%	52.3%	26.6%	1.3%	63.5%	36.5%				
13	問題を解決する力がある。	70.0%	30.0%	14.1%	55.9%	28.1%	1.9%	72.4%	27.6%	16.8%	55.6%	25.0%	2.6%	66.3%	33.7%				
14	真実を追求する気持ちがある。	84.7%	15.3%	40.3%	44.4%	13.1%	2.2%	86.5%	13.5%	35.5%	51.0%	11.8%	1.6%	79.8%	20.2%				
15	考える力(洞察・発想・論理力)がある。	71.6%	28.4%	19.2%	52.4%	25.6%	2.9%	75.0%	25.0%	21.1%	53.9%	23.4%	1.6%	68.6%	31.4%				
16	レポート作成・プレゼンテーション等、成果をまとめる力がある。	49.8%	50.2%	13.4%	36.4%	42.5%	7.7%	63.8%	36.2%	19.1%	44.7%	31.3%	4.9%	56.1%	43.9%				
17	国際性(国際感覚)がある。	43.8%	56.2%	12.5%	31.3%	41.5%	14.7%	47.4%	52.6%	13.8%	33.6%	43.1%	9.5%	39.1%	60.9%				
18	科学や自然について疑問を持ち、その疑問について人に質問したり、調べたりすることができる。	61.3%	38.7%	21.4%	39.9%	29.1%	9.6%	59.9%	40.1%	15.8%	44.1%	33.9%	6.3%	58.0%	42.0%				
19	理科や数学の授業で学習したことを普段の生活の中でできないか考えたことがある。	62.9%	37.1%	28.4%	34.5%	27.2%	9.9%	63.2%	36.8%	23.0%	40.1%	27.3%	9.5%	56.1%	43.9%				
20	将来、科学技術関係や理系分野(科学、数学、情報、建築、工学等)に関わる職業に就きたいと思う。	59.7%	40.3%	35.1%	24.6%	19.5%	20.8%	56.6%	43.4%	32.9%	23.7%	23.4%	20.1%	49.7%	50.3%				
21	普段の生活の中で、情報を分析して、自らの学習に生かしている。	54.6%	45.4%	11.5%	43.1%	37.1%	8.3%	57.6%	42.4%	12.5%	45.1%	35.9%	6.6%	49.7%	50.3%				
22	誰かと協働して物事に取り組むことは必要である。	95.8%	4.2%	69.6%	26.2%	3.2%	1.0%	94.1%	5.9%	57.9%	36.2%	4.9%	1.0%	92.3%	7.7%				
23	AI(人工知能)の進歩・発展は、人類を豊かにする。	80.2%	19.8%	30.7%	49.5%	15.3%	4.5%	83.6%	16.4%	31.9%	51.6%	13.2%	3.3%	78.8%	21.2%				
24	科学技術分野の進歩・発展は、人類を豊かにする。	92.0%	8.0%	55.9%	36.1%	6.4%	1.6%	90.8%	9.2%	48.4%	42.4%	6.9%	2.3%	90.4%	9.6%				
25	自分で課題を設定して研究することに興味がある。	63.9%	36.1%	21.1%	42.8%	30.7%	5.4%	64.8%	35.2%	21.4%	43.4%	30.3%	4.9%	53.2%	46.8%				
26	課題を設定して研究する方法を学ぶことは必要だと思う。	93.3%	6.7%	45.0%	48.2%	6.1%	0.6%	90.1%	9.9%	41.8%	48.4%	8.9%	1.0%	82.7%	17.3%				
27	今の自分自身に満足している。	28.4%	71.6%	7.0%	21.4%	37.4%	34.2%	32.2%	67.8%	7.2%	25.0%	42.8%	25.0%	30.8%	69.2%				
28	将来の夢や目標を持っている。	57.5%	42.5%	33.2%	24.3%	27.2%	15.3%	62.8%	37.2%	33.2%	29.6%	24.3%	12.8%	69.9%	30.1%				
29	自分の力で、社会を少しでも良くしたい。	83.4%	16.6%	40.9%	42.5%	12.1%	4.5%	80.6%	19.4%	31.3%	49.3%	14.8%	4.6%	75.0%	25.0%				
30	日ごろから、できるだけ多くの情報を収集するようにしている。	62.0%	38.0%	18.5%	43.5%	33.2%	4.8%	64.8%	35.2%	18.1%	46.7%	31.3%	3.9%	59.0%	41.0%				
31	入手した情報が信頼できるものかどうか、常に確認している。	63.3%	36.7%	22.0%	41.2%	32.9%	3.8%	66.1%	33.9%	19.1%	47.0%	30.6%	3.3%	66.7%	33.3%				
32	インターネット以外(書籍・印刷物等)からも情報を収集している。	54.6%	45.4%	23.3%	31.3%	35.1%	10.2%	56.6%	43.4%	17.8%	38.8%	34.2%	9.2%	56.7%	43.3%				
33	入手した複数の情報を分析し、自らの学習に生かしている。	60.1%	39.9%	15.7%	44.4%	32.9%	7.0%	64.8%	35.2%	15.1%	49.7%	29.6%	5.6%	55.8%	44.2%				
34	物事の因果関係を明確にし、筋道を立てて思考している。	63.6%	36.4%	13.1%	50.5%	32.6%	3.8%	68.8%	31.3%	16.1%	52.6%	27.0%	4.3%	60.6%	39.4%				
35	物事を伝えるときは、常にわかりやすく説明することを心掛けている。	89.8%	10.2%	39.0%	50.8%	9.3%	1.0%	89.5%	10.5%	32.6%	56.9%	9.9%	0.7%	81.7%	18.3%				
36	身近な出来事に疑問や問題点を見出し、漫然と日常生活を過ごさないようにしている。	49.5%	50.5%	12.8%	36.7%	40.9%	9.6%	53.6%	46.4%	15.1%	38.5%	40.5%	5.9%	44.2%	55.8%				
37	問題(課題)に直面した時、その解決に向けて、課題を調整する努力をしている。	77.6%	22.4%	19.5%	58.1%	20.4%	1.9%	71.7%	28.3%	16.1%	55.6%	25.7%	2.6%	64.7%	35.3%				
38	問題(課題)に直面した時、多角的な視点から、科学的な見方や考え方を通じて解決しようとする。	52.7%	47.3%	15.0%	37.7%	39.3%	8.0%	60.2%	39.8%	12.8%	47.4%	34.2%	5.6%	46.5%	53.5%				
39	問題(課題)に直面した時、解決すべき課題を科学的な筋道を立てて分析している。	43.1%	56.9%	11.5%	31.6%	45.7%	11.2%	49.7%	50.3%	7.9%	41.8%	43.4%	6.9%	33.3%	66.7%				
40	多様な他者との協働により、困難な課題に立ち向かう意思がある。	84.7%	15.3%	39.6%	45.0%	13.4%	1.9%	78.6%	21.4%	31.3%	47.4%	18.1%	3.3%	76.0%	24.0%				
41	対話や、連携を大事にし、新たな価値を創造する力がある。	68.7%	31.3%	25.9%	42.8%	28.4%	2.9%	72.7%	27.3%	21.7%	51.0%	22.0%	5.3%	63.8%	36.2%				
42	コンピューターやインターネットは、社会に必要な不可欠だと思う。	93.9%	6.1%	72.8%	21.1%	4.8%	1.3%	96.1%	3.9%	67.8%	28.3%	2.3%	1.6%	97.1%	2.9%				
43	コンピューターやインターネットは、学校の授業や学習に不可欠だ。	75.1%	24.9%	36.4%	38.7%	18.5%	6.4%	86.5%	13.5%	44.4%	42.1%	11.2%	2.3%	80.1%	19.9%				
44	現在の学習生活の中で、コンピューターや情報端末が活用されている。	95.8%	4.2%	72.2%	23.6%	3.2%	1.0%	94.1%	5.9%	66.8%	27.3%	3.9%	2.0%	94.6%	5.4%				
45	外部有識者や企業人による、講演会を受講したい。	59.4%	40.6%	23.3%	36.1%	28.4%	12.1%	62.5%	37.5%	24.7%	37.8%	26.3%	11.2%	48.7%	51.3%				
46	何事にも、挑戦心をもって取り組んでいる。	77.3%	22.7%	31.6%	45.7%	20.4%	2.2%	76.0%	24.0%	26.6%	49.3%	21.7%	2.3%	70.5%	29.5%				
47	解決すべき課題(問題)を科学的(論理的)に筋道をたてて解決しようとする。	55.9%	44.1%	11.8%	44.1%	37.7%	6.4%	63.2%	36.8%	12.5%	50.7%	30.6%	6.3%	49.4%	50.6%				
48	将来、多様な言語を用いた、グローバルな視点で活躍できる力がある。	33.2%	66.8%	8.3%	24.9%	47.0%	19.8%	40.5%	59.5%	9.9%	30.6%	43.4%	16.1%	33.3%	66.7%				
49	課題研究に取り組むうえで、守るべきルールや考え方を意識している。	88.5%	11.5%	36.4%	52.1%	10.9%	0.6%	85.9%	14.1%	29.9%	55.9%	12.8%	1.3%	78.8%	21.2%				
50	将来、世界を変えていけるような、大きな事業を起こしたい。	42.8%	57.2%	14.1%	28.8%	40.9%	16.3%	44.4%	55.6%	12.2%	32.2%	42.1%	13.5%	29.2%	70.8%				

評価4：非常にそう思う（強い肯定） 評価3：そう思う（肯定）
 評価2：あまり思わない（やや否定） 評価1：思わない（否定）の4段階評価とした。

No	設問	令和3年度 6月						令和3年度 12月						参考 令和2年度 1学年 12月	
		割合		割合				割合		割合				割合	
		肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思 う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わ ない	肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思 う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わ ない	肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)
51	理数系教科は、科学的な思考力や判断力を育てるのに欠かせない教科である。	95.5%	4.5%	57.2%	38.3%	2.6%	1.9%	90.5%	9.5%	46.4%	44.1%	7.6%	2.0%	86.5%	13.5%
52	自分は、理数系教科を興味深く意欲的に学んでいる。	68.1%	31.9%	28.4%	39.6%	23.3%	8.6%	62.8%	37.2%	28.0%	34.9%	28.6%	8.6%	57.7%	42.3%
53	自分は、理数系教科を深く学び、将来、科学技術の発展に貢献したい。	53.4%	46.6%	24.6%	28.8%	29.7%	16.9%	50.3%	49.7%	21.7%	28.6%	31.9%	17.8%	42.0%	58.0%
54	現在の学習生活の中で、今よりも情報端末を活用してほしい。	63.6%	36.4%	25.9%	37.7%	30.0%	6.4%	68.1%	31.9%	27.6%	40.5%	24.7%	7.2%	59.6%	40.4%
55	学習活動(授業等)で、得た知識を様々な場面で活用する力が増えたい。	72.8%	27.2%	20.1%	52.7%	23.0%	4.2%	77.0%	23.0%	24.3%	52.6%	18.4%	4.6%	67.9%	32.1%
56	学習活動(授業等)で、得た知識を様々な場面で活用する機会をもっと増やしたい。	83.1%	16.9%	35.8%	47.3%	13.4%	3.5%	79.9%	20.1%	32.2%	47.7%	16.4%	3.6%	70.8%	29.2%
57	学習活動(授業等)で、何を何処まで理解できたか、指針を知ることが、意欲向上につながる。	92.3%	7.7%	47.0%	45.4%	5.4%	2.2%	88.8%	11.2%	36.5%	52.3%	8.2%	3.0%	84.9%	15.1%
58	学習活動(授業等)で、何だどこまで理解できたか、指針を認識しながら学習している。	72.2%	27.8%	19.8%	52.4%	24.0%	3.8%	72.4%	27.6%	17.1%	55.3%	24.0%	3.6%	62.2%	37.8%
59	理科や数学の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役立つと思う。	79.9%	20.1%	36.1%	43.8%	12.8%	7.3%	78.9%	21.1%	33.9%	45.1%	15.8%	5.3%	67.3%	32.7%
60	理科、数学、情報(科学的知識を理解すること、インターネット等)を活用して情報収集すること、科学的・数学的に分析することが好きだ。	69.6%	30.4%	29.7%	39.9%	21.4%	8.9%	65.8%	34.2%	28.6%	37.2%	24.0%	10.2%	59.0%	41.0%
61	情報を様々な場面で活用する力が自分にはある。	52.4%	47.6%	11.8%	40.6%	41.2%	6.4%	56.9%	43.1%	13.5%	43.4%	39.1%	3.9%	54.8%	45.2%
62	情報を様々な場面で適切に活用する力を身に着け、伸ばすためには、すべての教科の学習が必要だ。	74.1%	25.9%	33.2%	40.9%	17.6%	8.3%	70.7%	29.3%	26.0%	44.7%	21.7%	7.6%	73.1%	26.9%
63	情報を様々な場面で適切に活用する力を伸ばすためには、今の学習方法ではまだ足りない。	83.7%	16.3%	43.5%	40.3%	14.7%	1.6%	78.0%	22.0%	28.0%	50.0%	19.1%	3.0%	70.5%	29.5%
64	共創探究基礎の授業に興味深く、意欲的に取り組んでいる。	78.3%	21.7%	23.3%	55.0%	18.8%	2.9%	77.0%	23.0%	26.0%	51.0%	18.4%	4.6%	76.9%	23.1%
65	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、自分の課題発見能力が伸びる。	80.2%	19.8%	25.6%	54.6%	16.0%	3.8%	76.3%	23.7%	24.3%	52.0%	19.1%	4.6%	66.0%	34.0%
66	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、異なる立場や考え方を共有することができ、自分の論理的思考力が伸びる。	83.1%	16.9%	28.4%	54.6%	13.4%	3.5%	79.3%	20.7%	24.7%	54.6%	16.4%	4.3%	69.9%	30.1%
67	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、自分の仲間と協働し、連携する能力が伸びる。	88.5%	11.5%	36.1%	52.4%	9.3%	2.2%	81.3%	18.8%	29.6%	51.6%	14.1%	4.6%	77.9%	22.1%
68	共創探究基礎の授業で、校外の研究施設や企業、大学から様々な指導助言を受けることにより、講演会を企画したい。	68.7%	31.3%	23.6%	45.0%	22.7%	8.6%	61.2%	38.8%	19.4%	41.8%	28.0%	10.9%	50.6%	49.4%
69	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、探究のプロセスの理解が深まった。	67.7%	32.3%	12.5%	55.3%	26.5%	5.8%	75.0%	25.0%	20.4%	54.6%	20.4%	4.6%	55.4%	44.6%
70	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、サイバーセキュリティに関する知識が増え、情報モラルに対する認識が高まった。	84.0%	16.0%	31.3%	52.7%	14.1%	1.9%	86.2%	13.8%	41.1%	45.1%	11.5%	2.3%	86.9%	13.1%
71	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、最先端のマルチメディア活用や処理技術を学ぶことができる。	80.5%	19.5%	23.6%	56.9%	17.6%	1.9%	82.6%	17.4%	29.6%	53.0%	13.8%	3.6%	74.0%	26.0%
72	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、科学技術の応用の仕方や情報技術の使い方について学ぶことができる。	83.1%	16.9%	25.9%	57.2%	14.4%	2.6%	83.9%	16.1%	32.6%	51.3%	12.8%	3.3%	80.4%	19.6%
73	共創探究基礎の授業に取り組むことにより、学校は、情報の収集、信頼性の確認、分析など学ぶ機会が与えられている。	91.7%	8.3%	38.3%	53.4%	6.1%	2.2%	88.2%	11.8%	38.5%	49.7%	8.9%	3.0%	85.9%	14.1%
74	様々な授業の中でタブレットを活用している。	85.9%	14.1%	51.1%	34.8%	10.9%	3.2%	88.2%	11.8%	50.0%	38.2%	9.5%	2.3%	92.6%	7.4%
75	学校生活の中で、タブレットを情報収集ツールとして活用している。	83.4%	16.6%	46.6%	36.7%	12.1%	4.5%	87.5%	12.5%	50.3%	37.2%	9.9%	2.6%	84.9%	15.1%
76	学校生活の中で、タブレットを画像の投稿や、ワークシートの提示等、情報発信ツールとして活用している。	84.3%	15.7%	45.0%	39.3%	10.2%	5.4%	86.5%	13.5%	46.1%	40.5%	8.9%	4.6%	78.5%	21.5%
77	学校生活の中で、タブレットのソフトを活用し、文章や表、スライドを作成し、自己表現ツールとして活用している。	83.7%	16.3%	41.9%	41.9%	13.1%	3.2%	89.8%	10.2%	47.4%	42.4%	8.9%	1.3%	83.0%	17.0%
78	学校生活の中で、タブレットを、情報の整理、分析ツールとして活用している。	74.8%	25.2%	30.7%	44.1%	20.4%	4.8%	85.9%	14.1%	41.1%	44.7%	10.9%	3.3%	76.6%	23.4%
79	学校生活の中で、タブレットを、オンラインミーティング等、双方向の情報交換ツールとして活用している。	77.0%	23.0%	33.5%	43.5%	18.2%	4.8%	79.6%	20.4%	40.1%	39.5%	16.8%	3.6%	69.6%	30.4%
80	学校生活の中で、タブレットのファイル共有システムを活用し、情報の共有に活用している。	82.7%	17.3%	38.0%	44.7%	13.1%	4.2%	82.2%	17.8%	39.8%	42.4%	14.8%	3.0%	80.1%	19.9%
81	学校生活の中で、タブレットを活用することにより、主体的に学ぶ姿勢が身についている。	68.7%	31.3%	20.4%	48.2%	24.9%	6.4%	78.3%	21.7%	26.6%	51.6%	16.8%	4.9%	69.9%	30.1%
82	自宅で、タブレットを、情報収集ツールとして活用している。	66.8%	33.2%	38.0%	28.8%	20.4%	12.8%	74.7%	25.3%	38.2%	36.5%	17.8%	7.6%	66.3%	33.7%
83	自宅で、タブレットを、画像の投稿や、ワークシートの提示等、情報発信ツールとして活用している。	55.0%	45.0%	25.9%	29.1%	29.1%	16.0%	72.4%	27.6%	34.5%	37.8%	18.8%	8.9%	54.8%	45.2%
84	自宅で、タブレットのソフトを活用し、文章や表、スライドを作成し、自己表現ツールとして活用している。	52.4%	47.6%	24.3%	28.1%	30.4%	17.3%	69.4%	30.6%	30.3%	39.1%	23.0%	7.6%	51.9%	48.1%
85	自宅で、タブレットを、情報の整理、分析ツールとして活用している。	52.4%	47.6%	21.1%	31.3%	28.4%	19.2%	71.4%	28.6%	32.6%	38.8%	21.4%	7.2%	51.0%	49.0%
86	自宅で、タブレットを、オンラインミーティング等、双方向の情報交換ツールとして活用している。	55.9%	44.1%	19.8%	36.1%	27.8%	16.3%	63.5%	36.5%	26.0%	37.5%	26.0%	10.5%	50.6%	49.4%
87	自宅で、タブレットのファイル共有システムを活用し、情報の共有に活用している。	47.3%	52.7%	14.4%	32.9%	33.2%	19.5%	68.1%	31.9%	24.3%	43.8%	23.7%	8.2%	46.8%	53.2%
88	自宅で、タブレットを活用することにより、主体的に学ぶ姿勢が身についている。	54.0%	46.0%	17.3%	36.7%	28.4%	17.6%	66.1%	33.9%	22.4%	43.8%	25.7%	8.2%	53.8%	46.2%
89	外国語(英語)は、表現力や思考力、判断力を育てるのに欠かせない教科である。	89.1%	10.9%	49.5%	39.6%	8.6%	2.2%	88.5%	11.5%	50.0%	38.5%	8.2%	3.3%	86.2%	13.8%
90	自分は、外国語(英語)に興味深く意欲的に学んでいる。	73.2%	26.8%	32.9%	40.3%	21.4%	5.4%	68.1%	31.9%	27.3%	40.8%	25.3%	6.6%	67.6%	32.4%
91	自分は、外国語(英語)のコミュニケーション能力を高め、将来、諸外国の様々な文化に触れてみたい。	76.7%	23.3%	47.0%	29.7%	17.6%	5.8%	74.0%	26.0%	41.1%	32.9%	18.8%	7.2%	69.9%	30.1%
92	外国語(英語)を様々な場面で活用するためには、今の学習方法ではまだ足りない。	93.6%	6.4%	62.9%	30.7%	4.8%	1.6%	88.5%	11.5%	53.9%	34.5%	8.9%	2.6%	82.7%	17.3%
93	外国語(英語)の学習において、他教科で学んだことが役に立つ。	67.7%	32.3%	27.2%	40.6%	26.8%	5.4%	74.0%	26.0%	27.6%	46.4%	21.1%	4.9%	66.0%	34.0%
94	表現力や思考力、判断力を育てるのに、ディベートやディスカッションは大事である。	94.6%	5.4%	54.0%	40.6%	4.5%	1.0%	90.5%	9.5%	45.1%	45.4%	5.9%	3.6%	85.9%	14.1%
95	社会人になり、仕事をやるようになったら、日本以外の国や地域でも活躍したい。	59.1%	40.9%	30.4%	28.8%	27.2%	13.7%	60.5%	39.5%	25.0%	35.5%	27.0%	12.5%	50.6%	49.4%
96	将来、世界に向けて有用な情報発信できるようにになりたい。	66.5%	33.5%	22.7%	43.8%	26.2%	7.3%	64.1%	35.9%	21.1%	43.1%	28.6%	7.2%	53.5%	46.5%
97	高校生のうちに、外国人とのコミュニケーションをとる機会があることは、自分の大きな人間成長につながると思う。	88.8%	11.2%	49.2%	39.6%	9.6%	1.6%	86.8%	13.2%	44.7%	42.1%	10.5%	2.6%	84.3%	15.7%
98	海外の高校や大学との交流に取り組みたい。	62.3%	37.7%	28.1%	34.2%	26.2%	11.5%	56.9%	43.1%	22.7%	34.2%	33.6%	9.5%	60.3%	39.7%
99	英語で自分の意見を述べるのが、以前よりもできるようになった。	68.7%	31.3%	17.9%	50.8%	24.0%	7.3%	71.7%	28.3%	24.0%	47.7%	22.0%	6.3%	69.6%	30.4%
100	英語で自分の意見を述べたり書いたりできる。	55.0%	45.0%	10.9%	44.1%	36.7%	8.3%	61.8%	38.2%	15.1%	46.7%	28.3%	9.9%	58.3%	41.7%
101	海外の高校生や大学生と、科学的なテーマについて意見交換などをしたい。	44.7%	55.3%	15.0%	29.7%	38.7%	16.6%	47.0%	53.0%	15.8%	31.3%	38.2%	14.8%	41.3%	58.7%
102	スタディサプリや小テスト等で、自分の学習がどこまで到達しているか、把握している。	59.7%	40.3%	16.6%	43.1%	28.4%	11.8%	54.9%	45.1%	17.4%	37.5%	30.9%	14.1%	63.8%	36.2%
103	スタディサプリや小テスト等で、自分の学習がどこまで到達しているか、把握する機会をもっとあったほうがいい。	69.0%	31.0%	23.6%	45.4%	24.3%	6.7%	62.2%	37.8%	24.0%	38.2%	25.3%	12.5%	51.9%	48.1%

② 2 学年生徒アンケート結果

総数 292 人を割合で示した。

評価 4 : 非常にそう思う (強い肯定) 評価 3 : そう思う (肯定)

評価 2 : あまり思わない (やや否定) 評価 1 : 思わない (否定) の 4 段階評価とした。

No	設問	令和3年 6月						令和3年 12月					
		割合		割合				割合		割合			
		肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わない	肯定的 評価(3+4)	否定的 評価(1+2)	評価4 非常に思 う	評価3 そう思う	評価2 あまり 思わない	評価1 思わない
1	クロームブックを用いて適切なレポートが作成できる。	89.0%	11.0%	29.0%	60.0%	9.3%	1.7%	96.9%	3.1%	28.0%	68.9%	2.4%	0.7%
2	クロームブックを用いて適切なプレゼンテーション資料が作成でき、発表ができる。	89.0%	11.0%	30.7%	58.3%	9.7%	1.4%	94.1%	5.9%	32.2%	61.9%	5.2%	0.7%
3	クロームブックを用いて、必要な資料や情報にアクセスでき、様々な情報を批判的な視点で評価できる。	83.1%	16.9%	24.1%	59.0%	15.9%	1.0%	91.3%	8.7%	25.9%	65.4%	8.0%	0.7%
4	得られる様々な情報を、多角的な視点から捉えることができる。	73.1%	26.9%	16.6%	56.6%	24.8%	2.1%	83.6%	16.4%	19.6%	64.0%	15.0%	1.4%
5	様々な情報に対し整理ができ、疑問に対しては客観性のある回答ができる。	74.1%	25.9%	14.5%	59.7%	23.1%	2.8%	82.5%	17.5%	14.3%	68.2%	16.1%	1.4%
6	得られた様々な情報を論理的に推論することができる。	60.7%	39.3%	11.4%	49.3%	35.5%	3.8%	80.4%	19.6%	17.5%	62.9%	18.2%	1.4%
7	課題を論理的に構造化することができる。	59.3%	40.7%	10.7%	48.6%	36.9%	3.8%	72.4%	27.6%	14.3%	58.0%	25.2%	2.4%
8	意見や手順を、論理的に展開できる。	69.0%	31.0%	13.8%	55.2%	27.9%	3.1%	81.1%	18.9%	18.2%	62.9%	17.1%	1.7%
9	筋道建てた、論理的な思考ができる。	65.5%	34.5%	12.4%	53.1%	31.4%	3.1%	82.2%	17.8%	16.4%	65.7%	15.7%	2.1%
10	得られた結果を正しく評価できる。	77.2%	22.8%	15.9%	61.4%	20.7%	2.1%	88.1%	11.9%	21.3%	66.8%	10.8%	1.0%
11	得られた結果を基準に照らし合わせ、比較、推論ができる。	74.1%	25.9%	14.8%	59.3%	23.4%	2.4%	85.7%	14.3%	19.6%	66.1%	12.9%	1.4%
12	得られた結果から、正しい進捗状況を把握できる。	77.2%	22.8%	14.8%	62.4%	20.7%	2.1%	84.3%	15.7%	19.6%	64.7%	15.0%	0.7%
13	計画に基づいた研究の進捗状況から、次の計画を正しく導出できる。	60.3%	39.7%	9.7%	50.7%	36.9%	2.8%	77.3%	22.7%	16.1%	61.2%	19.6%	3.1%
14	計画の見直しが必要な時は、正しい解決策を見つけることができる。	67.9%	32.1%	11.0%	56.9%	30.0%	2.1%	79.7%	20.3%	15.4%	64.3%	18.5%	1.7%
15	評価結果を次期計画に反映できる。	69.0%	31.0%	15.5%	53.4%	27.9%	3.1%	80.1%	19.9%	15.7%	64.3%	18.5%	1.4%
16	計画を立てる上で目的、目標が設定できる。	77.9%	22.1%	18.3%	59.7%	19.7%	2.4%	90.2%	9.8%	24.5%	65.7%	7.3%	2.4%
17	目的に応じた方法や計画を立てることができる。	75.5%	24.5%	17.2%	58.3%	19.3%	5.2%	87.4%	12.6%	23.8%	63.6%	11.5%	1.0%
18	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、意義や背景を理解することができる	77.6%	22.4%	18.6%	59.0%	19.3%	3.1%	85.0%	15.0%	23.4%	61.5%	13.6%	1.4%
19	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、意義や背景を他者に対しわかりやすく説明できる	65.2%	34.8%	13.4%	51.7%	31.4%	3.4%	73.8%	26.2%	17.8%	55.9%	23.1%	3.1%
20	輪読するテーマや課題研究テーマに対する質問に対し、適切な回答ができる。	59.0%	41.0%	8.3%	50.7%	36.2%	4.8%	72.7%	27.3%	14.7%	58.0%	24.8%	2.4%
21	輪読するテーマや課題研究テーマを適切に設定することができる。	68.3%	31.7%	11.4%	56.9%	28.3%	3.4%	81.8%	18.2%	21.0%	60.8%	17.1%	1.0%
22	輪読するテーマや課題研究テーマ設定に向けて、議論をすることができる。	72.8%	27.2%	16.6%	56.2%	24.1%	3.1%	81.5%	18.5%	20.6%	60.8%	17.1%	1.4%
23	輪読するテーマや課題研究テーマに対し背景の説明ができる	66.2%	33.8%	10.7%	55.5%	29.7%	4.1%	79.4%	20.6%	17.5%	61.9%	18.2%	2.4%
24	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、仮説を立てることができる。	64.1%	35.9%	10.3%	53.8%	32.4%	3.4%	77.6%	22.4%	19.2%	58.4%	20.3%	2.1%
25	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、提案の手法、実験手順などを組み立てることができる。	59.0%	41.0%	9.3%	49.7%	36.2%	4.8%	78.3%	21.7%	17.5%	60.8%	19.6%	2.1%
26	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、その研究内容を論理立てて説明できる。	61.0%	39.0%	11.4%	49.7%	34.5%	4.5%	75.9%	24.1%	14.7%	61.2%	22.4%	1.7%
27	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、その研究内容について説得力ある説明ができる。	58.3%	41.7%	7.9%	50.3%	37.2%	4.5%	67.5%	32.5%	13.6%	53.8%	31.1%	1.4%
28	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、その手法、実験手順などを論理的に構成できる。	53.8%	46.2%	8.3%	45.5%	41.0%	5.2%	74.5%	25.5%	14.0%	60.5%	23.4%	2.1%
29	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、科学的な手法を取り入れた研究ができる。	44.8%	55.2%	6.9%	37.9%	46.6%	8.6%	64.3%	35.7%	14.7%	49.7%	29.7%	5.9%
30	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、科学的な内容、要素を含んだ研究ができる。	47.2%	52.8%	6.2%	41.0%	43.8%	9.0%	65.4%	34.6%	15.0%	50.3%	29.0%	5.6%
31	輪読するテーマや課題研究テーマに対し、科学的な内容、要素を含んだ発表ができる。	45.9%	54.1%	8.6%	37.2%	46.6%	7.6%	62.6%	37.4%	14.0%	48.6%	31.8%	5.6%
32	議論の流れを読み、議論を進めることができる。	71.4%	28.6%	15.2%	56.2%	24.8%	3.8%	79.4%	20.6%	19.6%	59.8%	18.5%	2.1%
33	自分の意見だけではなく、他者の意見を引き出せる(他者に意見を求められる)。	72.4%	27.6%	19.0%	53.4%	23.8%	3.8%	76.2%	23.8%	20.6%	55.6%	20.3%	3.5%
34	議論を収束させ結論を導くことができる。	62.8%	37.2%	10.7%	52.1%	34.5%	2.8%	75.2%	24.8%	18.5%	56.6%	23.1%	1.7%
35	他者の意見を積極的に傾聴し、理解することができる。	89.3%	10.7%	31.0%	58.3%	9.0%	1.7%	90.6%	9.4%	30.1%	60.5%	9.1%	0.3%
36	相手の意見を、関心を持って聞くことができる。	90.0%	10.0%	36.2%	53.8%	9.3%	0.7%	92.0%	8.0%	37.8%	54.2%	7.3%	0.7%
37	相手の意見を適切に理解することができる。	83.8%	16.2%	25.2%	58.6%	15.2%	1.0%	92.0%	8.0%	30.1%	61.9%	7.7%	0.3%
38	自分の考えが偏っていないか、注意深く考えて発言することができる。	70.0%	30.0%	18.3%	51.7%	27.2%	2.8%	79.0%	21.0%	22.4%	56.6%	19.2%	1.7%
39	自分の思考を他者の思考と比較し、偏向していないか、常に軌道修正し、内省して考察することができる。	70.0%	30.0%	16.6%	53.4%	27.9%	2.1%	78.7%	21.3%	18.9%	59.8%	18.9%	2.4%
40	様々な事象を自分の言葉で伝えることができる。	73.8%	26.2%	19.0%	54.8%	24.5%	1.7%	83.6%	16.4%	17.5%	66.1%	15.4%	1.0%
41	自ら周囲に話しかけ、相手からも話しかけられ、議論する良好な人間関係を築くことができる。	65.5%	34.5%	17.6%	47.9%	29.0%	5.5%	73.1%	26.9%	20.6%	52.4%	21.0%	5.9%
42	授業の運営・展開に積極的にかわり、ゼミや講義、実験などに積極的に協力できる。	73.8%	26.2%	20.0%	53.8%	22.8%	3.4%	83.6%	16.4%	25.2%	58.4%	15.4%	1.0%
43	自分が所属するゼミやチーム・班のメンバーとして、目標に向かって積極的に行動できる。	84.5%	15.5%	26.9%	57.6%	13.8%	1.7%	86.7%	13.3%	30.4%	56.3%	11.5%	1.7%
44	自分が所属するゼミやチーム・班のメンバーとして、与えられた役割を全うできるよう取り組むことができる。	86.9%	13.1%	30.7%	56.2%	11.4%	1.7%	88.8%	11.2%	29.7%	59.1%	10.1%	1.0%
45	議論や討議等話し合いを、メールや共有ドキュメント等のコミュニケーションツールを用いて実施することができる。	73.8%	26.2%	23.4%	50.3%	22.8%	3.4%	86.7%	13.3%	27.3%	59.4%	10.8%	2.4%
46	議論や討議等話し合いを、協調性をもって他者と協働して取り進むことができる。	87.6%	12.4%	28.6%	59.0%	11.0%	1.4%	91.3%	8.7%	28.3%	62.9%	6.6%	2.1%
47	発表に対しては、間の取り方、抑揚、等を工夫し、相手の聞き取りやすさを心がけている。	79.0%	21.0%	20.0%	59.0%	20.0%	1.0%	79.7%	20.3%	21.3%	58.4%	19.2%	1.0%
48	発表に対しては、聴衆の表情を確認しながら、自分自身のジェスチャーにも工夫している。	63.1%	36.9%	14.1%	49.0%	33.1%	3.8%	69.6%	30.4%	19.6%	50.0%	28.3%	2.1%
49	発表に対しては、明瞭な言語の文法を意識した表現に心がけている。	76.2%	23.8%	17.2%	59.0%	21.0%	2.8%	77.3%	22.7%	21.0%	56.3%	21.0%	1.7%
50	発表、提出資料に対しては、文字の大きさや図表の使い方、1枚(1ページ)の情報量などを考慮しながら作成している。	86.2%	13.8%	36.9%	49.3%	11.7%	2.1%	88.5%	11.5%	36.0%	52.4%	9.1%	2.4%
51	発表に対しては、日本語を英語に翻訳することを意識して、発表原稿を作成している。	32.8%	67.2%	7.9%	24.8%	36.6%	30.7%	45.5%	54.5%	11.5%	33.9%	30.8%	23.8%
52	英文でのsummaryは、内容を簡潔にまとめたもので、自分の感想等、"I think", "in my opinion"などは入れない、ことを知っている。	23.8%	76.2%	6.6%	17.2%	31.4%	44.8%	41.3%	58.7%	13.6%	27.6%	27.3%	31.5%
53	発表原稿に対し、その要約を、少しは英語で作成することができる。	40.7%	59.3%	3.8%	36.9%	38.3%	21.0%	53.1%	46.9%	10.8%	42.3%	31.5%	15.4%
54	探究活動や実験等の発表において、先行研究からの引用や参照した文献等については、出典を明記し、ねつ造や剽窃、改ざん、盗用などの不正行為は一切行わず、責任のある研究活動を行っている。	87.2%	12.8%	46.9%	40.3%	11.7%	1.0%	91.3%	8.7%	46.9%	44.4%	7.3%	1.4%

③教職員アンケート（総数 58 人）

設問 1 本校の SSH 研究開発課題を知っていますか。

はい	なんとなく知っている	いいえ
48.3%	44.8%	6.98%

設問 2 本校の SSH 事業は、学校全体で取り組んでいると思いますか。

はい	いいえ
79.3%	20.7%

設問 3 本校の SSH 事業（人的支援、備品消耗品の充実、先進校視察・海外研修等）は生徒の教育活動の充実に役立つと思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

役立つ	やや役立つ	あまり役立たない	役立たない	わからない
29.3%	51.7%	6.9%	1.7%	10.3%

設問 4 SSH 事業は、生徒の主体的な探究活動・課題研究を促す動機付けになるとと思いますか。

なる	ややなる	あまりならない	ならない	わからない
32.8%	51.7%	5.2%	1.7%	8.6%

設問 5 SSH 事業は、教員の教科指導力向上や授業改善に役立つと思いますか。

役立つ	やや役立つ	あまり役立たない	役立たない	わからない
32.8%	46.6%	6.9%	1.7%	12.1%

設問 6 SSH の取組に参加したことで、生徒の科学技術に対する興味・関心は向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
29.3%	50.0%	6.9%	0.0%	13.8%

設問 7 SSH の取組に参加したことで、生徒の学習活動（科学、数学、情報等）への興味・関心が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
27.6%	50.0%	6.9%	1.7%	13.8%

設問 8 SSH の取組に参加したことで、生徒の自ら取り組む姿勢（自主性・やる気等）が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
32.8%	44.8%	8.6%	0.0%	13.8%

設問 9 SSH の取組に参加したことで、生徒は周囲と協力して取り組む姿勢（協調性やリーダーシップ）が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
32.8%	48.3%	1.7%	5.2%	12.1%

設問 10 SSH の取組に参加したことで、生徒の伝える力（プレゼンテーション能力やレポート作成能力）が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
46.6%	43.1%	1.7%	3.4%	5.2%

設問 11 SSH の取組に参加したことで、生徒の、社会で科学技術を正しく用いる姿勢が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
29.3%	46.6%	6.9%	1.7%	15.5%

設問 12 SSH の取組に参加したことで、生徒の英語による表現力、国際感覚が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
19.0%	41.4%	10.3%	1.7%	27.6%

設問 13 SSH の取組に参加したことで、生徒の学習全般において、学んだことを応用することへの興味が向上すると思いますか。次の選択肢から 1 つ選んでください。

向上する	やや向上する	あまり向上しない	効果はない	わからない
20.7%	56.9%	5.2%	1.7%	15.5%

設問 14 SSH の取組で、効果があると思われる取組はどれだと思いますか。番号に○をつけてください（複数回答可）。なお、その他を選択した場合は、具体的取組を（ ）に記入してください。

① タブレットの活用（インターネットを利用したインタラクティブな授業展開等）	69.0%
② 探究活動（「共創・探究」を活用した、生徒の主体的な研究、探究活動）	67.2%
③ 大学、企業訪問（研究室や実験室、工場等の見学）	36.2%
④ 校外研修活動（体験的学習や実地レポートの作成）	31.0%
⑤ 外部講師による講演会（知の探訪、知の共有）	37.9%
⑥ 研究発表会（プレゼンテーションやポスター制作）	48.3%
⑦ 海外研修（語学研修及び海外の大学・高校等異文化交流）	29.3%
⑧ その他（ ）	0%

④関係資料－４ 令和３年度「共創探究Ⅰ」課題研究テーマ一覧

※令和４年２月８日時点でテーマが決定しているもののみ記載

ゼミ	研究テーマ
ゲーム理論	宣言じゃんけん
ゲーム理論	ライアーゲームの心理学・ゲーム理論応用
ゲーム理論	将棋とゲーム理論
ゲーム理論	ゲーム理論を用いた歴史研究
ゲーム理論	囚人のジレンマ
ゲーム理論	命令する側とされる側
ゲーム理論	ドナーとゲーム理論
ゲーム理論	勉強と友人関係のジレンマ
スポーツと測定評価	シュートの確率によって勝敗が決まる？
スポーツと測定評価	ソフトボールの球種の特徴～ストレートとチェンジアップについて～
スポーツと測定評価	視力が運動能力に及ぼす影響
スポーツと測定評価	応援は選手のパフォーマンスを高める？～バスケットボール編～
スポーツと測定評価	運動能力を可視化しよう～新体力テストを用いて～
スポーツと測定評価	パスは勝敗を分ける～サッカープレイヤー必見～
情報社会におけるコミュニケーション	情報社会における対面コミュニケーションの必要性
情報社会におけるコミュニケーション	それって「情報」？それとも「噂」？
情報社会におけるコミュニケーション	情報を見極める
情報社会におけるコミュニケーション	プロパガンダ研究からマスコミ研究へ
情報社会におけるコミュニケーション	コミュニケーションの変化が社会に及ぼす影響
情報社会におけるコミュニケーション	情報社会による多種多様な問題を情報コミュニケーションの観点から解決するには
情報社会におけるコミュニケーション	メディア文化の発展の比較と現代社会
情報セキュリティ	「時代の変化と不正アクセスの関係性とその対策について考える」
情報セキュリティ	初のハッキングと現代の知識を用いたそのセキュリティ方法
情報セキュリティ	フェイクニュースを理解する重要性
情報セキュリティ	セキュリティーの脆弱性
情報セキュリティ	ファイアウォールの必要性
情報セキュリティ	個人でできるセキュリティ
情報セキュリティ	はびこるチート・実態と今後の対策
情報セキュリティ	マルウェアの危険性
情報セキュリティ	スマホのセキュリティ対策
組込み系システム入門	無線マイコンモジュール
初めての統計学	ディズニーキャラクターと統計
The 実験	リアモーターカーをつくる
The 実験	四葉のクローバーの存在確率を調べる
The 実験	最良の消波ブロックとは一波を消す構造体を考えるー
The 実験	最も効率の良い水切りとは
The 実験	植物の温度耐性とダイラタンシー現象
The 実験	効率の良い換気
The 実験	粉塵爆発
The 実験	マスクの解析 ～小麦粉を添えて～
The 実験	江南1の席はどこか
持続可能な未来のための化学	ライフストローの効果から水問題を考える
持続可能な未来のための化学	廃油を有効的に使おう
持続可能な未来のための化学	水質調査
持続可能な未来のための化学	バイオエタノールを身近に！
持続可能な未来のための化学	パイクリートの可能性について
持続可能な未来のための化学	植物の日焼け

ゼミ	研究テーマ
持続可能な未来のための化学	大気質と気候の関係と私たち
地球環境を考える	りんごから多くの糖を取り出すには？～りんごの皮の粉碎方法と状態と、アルコール量の関係～
地球環境を考える	ただの砂糖水を環境にやさしい燃料にかえる～バイオエタノールの培養方法の比較～
地球環境を考える	容器によってアルコール発酵量は変わるのか
地球環境を考える	アルコール発酵と糖の種類の関係性
生物学研究	シュレッターダストの分解とその活用法についての考察
生物学研究	環境に優しい紙作り
生物学研究	チョークの成分によるアリの走性
生物学研究	かいわれ大根の再生
生物学研究	アレロパシー活性による雑草の発芽抑制
生涯スポーツの研究・開発	オールボール～すべてのスポーツの動きを取り入れる～
生涯スポーツの研究・開発	ベビーバレーボール
D I G	学校における洪水対策
D I G	これからの災害対策「減災編」
D I G	改良版ハザードマップ in 平塚市大神
D I G	金目川の洪水被害について
リーダーシップ理論	リーダーシップとコミュニケーション
リーダーシップ理論	誰もが意見を出しやすい環境について
リーダーシップ理論	的思考和経営
リーダーシップ理論	身近なことから始めるコミュニケーション
リーダーシップ理論	ピンチなどときのリーダーシップ
リーダーシップ理論	高校生に効果的な率先垂範・同僚支援
リーダーシップ理論	リーダーシップ史～理想の政治体制とは～
リーダーシップ理論	グローバルに活躍できる医療人とは何か
リーダーシップ理論	率先垂範とスクールカーストの関係性について
認知心理学入門	平塚江南高校の過去から現在までの学校行事と生徒の特徴
認知心理学入門	生徒を認める教育法～モチベーションアップにつながる声掛け～
認知心理学入門	近現代文学教育論～これからの現代文、どうする？～
認知心理学入門	小・中・高校生の短期記憶量の差
認知心理学入門	オノマトペ
認知心理学入門	短時間の閉眼が及ぼす効果の調査
認知心理学入門	パーソナルスペース
認知心理学入門	勉強と五感の関係性
城	首里城御庭浮道の研究
城	城と城主の心理的關係性
城	観光資源としての城の役割
城	難攻不落の城と呼ばれる条件は何か
城	江戸の城下町がなぜ首都になったのか
城	環境問題と城
城	城における構造の変化とその背景
城	難攻不落の城
Action for SDGs	共創・探究 I Action for SDGs ～未来への道標～
武人のうた	防人の歌にみる作者の思い～かわらない愛のかたち～
武人のうた	今や昔のうたごころ
武人のうた	捲土重来ふたりはプリキユア